

## 海と日常がつながる場所～ひらつかシーテラス～

### 【2025 大学連携事業・東海大学】

大学生が「ひらつかシーテラス」の魅力をブログ形式で紹介します！

※この記事は、大学連携事業の一環として作成されたものです。

---

11月22日（土）午前10時頃、ひらつかシーテラスを訪れた。この日は快晴で暖かく、穏やかな空気の中、波の音が心地よく響いていました。

平塚駅からは循環バスで「袖ヶ浜」まで向かい、そこから徒歩ですぐの場所にあり、アクセスはとても分かりやすかったです。一度行けば迷うことはなく、帰りはのんびり歩いて平塚駅まで戻ることもでき、徒歩20～30分ほどの距離でした。



[写真1：ひらつかシーテラス入口]

ひらつかシーテラスは、施設が広く配置されており、空間がぎゅっと詰め込まれていない点が印象的でした。街中の商業施設というよりも、道路や住宅地に囲まれながら、海と

ほどよい距離感を保つ開放的な場所です。テラス席や建物の配置からは、「人と海を近づける」ことを意識した設計が感じられました。



[写真 2：建物全体の様子]

当日は観光客よりも地元の方の姿が多く見られ、ペットを連れて散歩をする人や、家族連れ、ご高齢の方が海辺をゆっくり歩く様子が印象的でした。テラスからは湘南の海を一望でき、天気の良い日には富士山も望むことができます。暖かい日差しの中、波の音を聞きながら過ごす時間は、とても穏やかで癒しのあるものでした。



[写真 3:テラスからの海の景色]

施設内には飲食店が充実しており、この日は軽食をとりながら、海の写真を撮ったり、散歩をしたり、雑談を楽しみました。一方で、食事スペースやテラス席は屋外が中心であるため、冬場は寒さが課題になると感じ、また、雨や雪の日には目的地として選ばれにくい点も考慮する必要があると思いました。



[写真 4:軽食の様子]

ひらつかシーテラスは、1年を通して景色を楽しみ、散歩やリフレッシュを目的に訪れることができる場所です。その反面、最近オープンした施設であるにもかかわらず、秦野に住んでいて存在を知らなかったことから、地域住民以外への情報発信はまだ十分とは言えないと感じました。

今回訪れてみて、ひらつかシーテラスは観光客向けというよりも、地域住民の日常に寄り添う場所であるという印象を受けました。

また、平塚駅からのアクセスが良いため、モデルコースの可能性も広がります。実際に今回は、ひらつかシーテラスを訪れた後に寒川へ移動し、体験や参拝を行い、夕方には帰宅することができました。季節ごとのイベントや周辺地域と組み合わせることで、滞在時間の短さという弱点も補えると思います。

海と人との距離が近く、日常の延長として立ち寄れるひらつかシーテラスは、これからの湘南地域における新たな交流と癒しの拠点として、さらなる可能性を秘めていると感じました。

[!\[\]\(e474458956c9a37fbf9586ddb60a7fa1\_img.jpg\) ひらつかシーテラスの HP はこちらから](#)